

小学部 生活単元学習 学習指導案

日時 7月15日(木) 10:55~1150

場所 小学部B組教室, プレイルーム

対象 小学部B組児童

指導者 T1 中村佳代 T2 伊東麻衣子

1 単元名「げきをしよう」

2 単元について

○児童観

本学級の児童は、3年生が3名、4年生が4名、計6名が在籍している。4年生のうち1名は本年度転入してきた児童である。中学年の新学級になり、友達同士で遊ぶ児童や、少しずつ友達や教師に目を向け関わるようになってきた児童等、人との関わりにおいて広がりが見られるようになってきた。コミュニケーション面では、友達や教師と簡単な会話をする児童や、ジェスチャーを加えてやりとりをする児童、少しずつ単語や二語文で要求や思いを伝えるようになってきている児童等、実態は様々である。

本学級の児童の国語科の実態について、昨年度作成した学習内容表を活用して実態把握を行ったところ、「言葉の特徴や使い方」「書くこと」等の学習については習得が進んでいたり、繰り返し取り組まれていたりすることが分かった。また、「聞くこと・話すこと」「読むこと」については育成が不十分であることが分かった。小学部の国語科の授業は、時間における指導と各教科等を合わせた指導の中で行っている。今年度も時間における指導では、教師と一対一の授業の形態で行っており、取り扱う内容の偏りがあることが明らかになった。各教科等を合わせた指導における国語科の学習として、本学級では6月中旬の生活単元学習において、校内の図書室や公共の図書館を利用し、好きな絵本を見つけて読む学習を行った。絵本を読む際には、挿絵を見て楽しんだり、物語の内容を理解し気持ちを込めて音読したりと、楽しみ方は様々であった。この単元を通して、児童一人ひとりの読み方の広がりが見られた。

本学級の児童の生活科の「役割を果たすこと」に関する実態については、朝の日常生活の指導の時間に、一人ひとりが毎日係の仕事に取り組むことができているという実態がある。また、朝の会や帰りの会で、役割を分担しながら自分達で進めることができるようになった。また、教師の指示を聞いて、授業で使う大きな道具の準備や後片付けを役割分担して行い、友達と協力して運ぶ姿も少しずつ見られるようになってきた。

○単元観

本単元では、「ブレーメンの音楽隊」の絵本の場面や全体の内容を理解し、登場する動物になりきり、劇をする学習に取り組む。「ブレーメンの音楽隊」の物語は、動物が登場し、児童にとって親しみやすく、場面展開が分かりやすいため、内容を理解しやすいと考える。動物は自分達で考えた身近な鳴き声のある動物の中から選ぶことで、より主体的に取り組むことができるようにする。学級全体で劇に取り組むことで、楽しみながら、国語科の「聞くこと・話すこと」「読むこと」に関する力を育んでいきたい。

また、本単元の終盤に、劇を級外の教師に向けて発表する活動を設定する。発表に向けた準備の

中で、お面や小道具を作る学習や招待状を書く学習、劇の中のはじめのことばやおわりのことば、道具の準備や後片付け等に取り組む学習等において、役割を分担しながら協力して行うことを目指している。準備段階から自分達で役割を決めることで、より主体的に取り組む、友達と協力して役割を果たす生活科の「役割」に関する力を育んでいきたい。

○指導観

指導にあたっては、単元の導入時に絵本の読み聞かせや教師による劇を見せることで、「自分たちもやってみたい。」という児童の意欲を引き出し、準備段階から自分達で配役や役割を決めたり、お面や小道具を作ったりする活動を設定することで、主体的に活動できるようにしていきたい。

国語科の「読むこと」の物語の内容理解については、「どんな動物が登場するのか」、「どんな動物の鳴き声や動作なのか」、「場面によってどんな気持ちなのか」など、児童の実態に合わせて、発問を行う。児童のつぶやきを丁寧に拾ったり、考えて選択できるように感情を表すイラストを準備するなどの工夫を行ったりする。また、国語科の「聞くこと・話すこと」の表現の仕方については、児童によって台詞を言ったり動作をしたりと、実態に合わせて表現できるようにする。発語が難しい児童にはタブレット端末を活用し、あらかじめ録音しておいた台詞の音声で流れるようにする。場面によって台詞の言い方を考えたり、台詞に合わせた動作を考えたりする時間を設定する。その際、一人ずつ考えた台詞を言ったり動作をしたりした後に、感想を伝えたり一緒に考えたりする時間を設定する。教師が間に入り、子ども達同士のやりとりや対話につなげていきたい。一連の活動を通して、イメージする力や表現する力を深めていきたい。

生活科の「役割」については、発表に向けた準備の中で役割を分担しながら活動できるようにする。小道具のしげみを作る際には、2つのグループに分かれて友達同士で協力して制作する場面を設定する。また、劇をする中での役割は、はじめのことばやおわりのことばの役割、小道具を運ぶ役割、音楽を流す役割等、自分達で役割を設定する。自分達で決めた役割を担い、協力して行うことで「劇を作り上げた。」という達成感を味わってほしい。

単元の終盤には、いつもと異なる広い部屋で、級外の教師を招いて劇の発表を行う。繰り返し練習を重ねて本番を迎え、劇を楽しんで行い、称賛されることで、児童が自信をもったり達成感を味わったりし、自己肯定感を高められるようにしていきたい。

3 単元の目標

- 「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、場面の様子や登場する動物の行動等についてイメージしたことを言葉や動作で表すことができる。(国語科)
- 「ブレーメンのB組音楽隊」を発表するにあたって、友達と協力したり分担したりして役割を果たすことができる。(生活科)

4 単元の計画 (全 11 時間)

次	時	日時	学習内容	指導内容 (学習指導要領か学習内容表から)
1	5	7/5 7/6	○「ブレーメンの音楽隊」について知ろう。	国語科 読むこと 聞くこと・話すこと

		7/7	○劇の準備をしよう。	生活科 日課・予定
		7/8	・配役を決める。	生活科 役割
		7/9	・お面や小道具を作る。 ・役割を決める。 ・招待状を書く。 ・台詞を読む練習をする。	図画工作科 表現
2	4	7/12	○通し練習をしよう。	国語科 読むこと
		7/13		聞くこと・話すこと
		7/14	○リハーサルをしよう。	生活科 役割
		7/15		
		【本時】		
3	1	7/16	○お客さんの前で、劇をしよう。	国語科 読むこと
				聞くこと・話すこと
				生活科 役割
4	1	7/19	○ふりかえりをしよう。	国語科 書くこと
				図画工作科 表現

5 単元の個人目標

児童	個人目標
a	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ライオンの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。(国語科 小学部 2 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」を発表するにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
b	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ネコの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。(国語科 小学部 2 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の発表をするにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
c	① 「ブレーメンの音楽隊」の劇をする中で、ブタの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。(国語科 小学部 2 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、自分の役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
d	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に向けて、台詞に合わせた動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
e	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に向けて、台詞に合わせた動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。

	(生活科 小学部 2 段階)
f	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、他の役の友達の働きかけに視線を向けたり、教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることができる。(国語科 小学部 1 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、分担された役割を教師と一緒に果たすことができる。(生活科 小学部 1 段階)

6 本時のねらい

- 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、場面の様子や登場する動物の行動等について、イメージしたことを言葉や動作で表すことができる。(国語科)
- 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して小道具を運んだり、はじめのことばやおわりのことばを言ったりして、役割を果たすことができる。(生活科)

7 本時の個人目標

児童	個人目標
a	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ライオンの役になりきり、悲しい場面では悲しそうな動作をしながら台詞を言ったり、泥棒を驚かさず場面では驚かさずような声で台詞を言ったりすることができる。(国語科 小学部 2 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、友達の様子を見ながら、全員で台詞を言う際の掛け声を言う役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
b	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ネコの役になりきり、悲しい場面では悲しそうな動作をしながら台詞を言ったり、嬉しい場面では嬉しそうな声で台詞を言ったりすることができる。(国語科 小学部 2 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して小道具を運ぶ役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
c	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ブタの役になりきり、悲しそうな場面では悲しそうに台詞を言ったり、疲れている場面では疲れている様子で台詞を言ったりすることができる。(国語科 小学部 2 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、泥棒の書き割りを動かす役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
d	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に「いっしょにブレーメンにいこう」という台詞を言う際に、友達の目を見たり、友達のところに駆け寄ったりして、動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、おわりのことばの役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)
e	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に「どうしたの」という台詞を言う際に、友達の目を見たり、友達のところに駆け寄ったりして、動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)
	② 「ブレーメン B 組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して小道具を運ぶ役割を果たすことができ

	る。(生活科 小学部 2 段階)
f	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、他の役の友達に「どうしたの」や「いってみよう」と台詞を言われた時に友達の方に視線を向けたり、教師と一緒に「ワンワン」と犬の鳴き声を模倣したりすることができる。(国語科 小学部 1 段階)
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、タブレット PC を使って音楽を流す役割を教師と一緒に果たすことができる。(生活科 小学部 1 段階)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援
10:55	1 はじめのあいさつをする。	・身だしなみを整え、姿勢よくあいさつをするように言葉かけをする。
10:56	2 前時の動画を見て、ふりかえりをする。 ※fは別の活動を行いながら、学習する。(お花紙を丸めて貼る。)	・前時のふりかえりの時間に気づいたことについて、動画を見て、気づきを発表する時間を設ける。 ・発言の手がかりとなるように、「すごい・じょうず」「〇〇したらいいよ」という言葉とイラストがかかれた札を用意し、その札をあげて伝えることができるようにする。 ・「〇〇したらいいよ」と札をあげた後理由を伝えることが難しい時には、教師から「〇〇のことかな？」と発問する。 ・「かなしい」「おどろかそう」の気持ちを表すイラストを用意しておき、必要に応じて提示する。 ・ふりかえりで考えたことを意識して練習し、リハーサルに向けて意欲を高める。
	◎前時のふりかえりの時間に気づいたこと ・悲しそうな場面と泥棒を驚かさず場面の表現について ・最後に「せーの」と掛け声の後、「めでたし めでたし」の表現について	
11:10	3 道具を持ってプレイルームに移動する。	・道具を運ぶ役割を確認する。
11:15	4 リハーサルをする。	・電子黒板で、ナレーションの言葉や児童の台詞等を場面ごとに提示する。必要に応じて、自分の出番や台詞を言う児童に言葉かけをする。 ・児童の動きを見ながら、ナレーションをする。 ・緊張や恥ずかしさが見られる児童には、台詞を言う際の動作の手本を示す。 ・音楽を流す役割の児童には、実際の劇に注目しながら、タブレット PC の操作ができるように言葉かけをする。
11:40	5 リハーサルを見た教師から感想を聞く。	・感想をもらう教師に注目するように言葉かけをする。
11:45	6 道具を片づけて、教室に移動する	・道具を運ぶ役割を確認する。
11:50	7 一人ずつ、ふりかえりを行う。	・ふりかえりの際は、感想を伝えやすいように、「がんばった」「たのしかった」「緊張した」という気持ちのイラストを提示す

11:54	8 おわりのあいさつをする。	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信や達成感につながるように、リハーサルを見た教師から称賛された点を再度伝える。 ・身だしなみを整え、姿勢よくあいさつをするように言葉かけをする。
-------	----------------	---

9 本時の個人目標の評価

児童	個人目標	評価	評価の根拠、次回に向けて
a	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ライオンの役になりきり、悲しい場面では悲しそうな動作をしながら台詞を言ったり、泥棒を驚かす場面では驚かすような声で台詞を言ったりすることができる。(国語科 小学部 2 段階)	△	悲しい場面と驚かす場面の違いは理解しているが、台詞を読んで言うことで精一杯で、気持ちを込めて言うことは難しかった。驚かす「がおー」は鳴き声のみだったので、驚かすように大きな声を出して言うことができた。
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、友達の様子を見ながら、全員で台詞を言う際の掛け声をかける役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	△	劇の中で友達の様子を見て掛け声をかけることは難しかったが、役割の理解はできしており、劇をする前に教室で練習をした時には、自分から周りの友達の様子を見渡して「じゅんびオッケー？」と掛け声をかける姿が見られた。
b	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ネコの役になりきり、悲しい場面では悲しそうな動作をしながら台詞を言ったり、嬉しい場面では嬉しそうな声で台詞を言ったりすることができる。(国語科 小学部 2 段階)	○	
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して小道具を運ぶ役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	○	
c	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ブタの役になりきり、悲しそうな場面では悲しそうに台詞を言ったり、疲れている場面では疲れている様子で台詞を言ったりすることができる。(国語科 小学部 2 段階)	△	悲しそうに台詞を言うことはできていた。疲れている様子で台詞を言うことは難しかった。
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、泥棒の書き割りを動かす役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	○	
d	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に「い	○	「それじゃあ、いっしょにブレーメンにいこうよ」の台詞の意味が分かっていて、自分か

	っしょにブレーメンにいこう」という台詞を言う際に、友達の間を見たり、友達のところに駆け寄りたりして、動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)		ら友達の方を向いて、動作をすることができた。
	② 「ブレーメン B 組音楽隊」の劇をする中で、おわりのことばの役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	○	タブレット端末を使って、おわりのことばの音源を流す役割の場面では、BGM が終わるのを待って自分から動かすことができていた。
e	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に「どうしたの」という台詞を言う際に、友達の間を見たり、友達のところに駆け寄りたりして、動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)	○	
	② 「ブレーメン B 組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して小道具を運ぶ役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	○	
f	① 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、他の役の友達に「どうしたの」や「いってみよう」と台詞を言われた時に友達の方に視線を向けたり、教師と一緒に「ワンワン」と犬の鳴き声を模倣したりすることができる。(国語科 小学部 1 段階)	△	これらを目標としてねらうことは難しかった。目標設定から検討し直していきたい。
	② 「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、タブレット PC を使って音楽を流す役割を教師と一緒に果たすことができる。(生活科 小学部 1 段階)	○	

評価は○と△の 2 段階評価

10 授業改善について (主体的・対話的で深い学びの視点で)

15 日の前時の振り返りの時間からリハーサルに行く前に、児童から「がんばるぞ」という掛け声が自然と出ていたので、16 日も本番に向けて意欲を高めるような時間をもちたい。

11 単元の個人目標（各教科・領域等） と評価

児童	個人目標	評価 今後に向けて	
a	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ライオンの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。 (国語科 小学部 2 段階)	ア	自分の台詞を言うことができるようになった。
		イ	実際に台詞で表す際には、読むことで精一杯になり、気持ちを込めることは難しかったが、登場する動物の台詞を考える際には、2つのイラストを手掛かりに「困っている」と自分なりに気持ちを考えて言うことができた。
		ウ	練習を重ねる中で、自分なりに言いやすい台詞に変え、工夫して表現する姿が見られた。
		今後に向けて これまでは平仮名を読むことには苦手意識が見られたが、単元を通して少しずつ自信がついてきて、他の場面でも自分から進んで本を読む姿が見られるようになった。今後は、読み取って表現する力をさらに伸ばしたい。	
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」を発表するにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。 (生活科 小学部 2 段階)	ア	(単元期間中に足を怪我していたため、活動への制約がある中で、直接協力して役割を果たす場面は難しかったが) 自分の役割を理解して、取り組むことができた。
		イ	お面を渡す役割の時には友達の名前を言いながら渡したり、掛け声をかける際には友達の様子を見渡してから「せーの」と言ったりして、友達を意識して役割を果たすことができた。
		ウ	劇の会場に向かう前に、自分からお面が入っているかごを取りに行く様子が見られた。
		今後に向けて 友達と協力して役割を果たす場面を設定する。	
b	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ネコの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。(国語科 小学部 2 段階)	ア	気持ちの理解ができ、一つ一つの台詞に気持ちを込め、動作をつけながら表現することができた。
		イ	登場する動物の台詞から気持ちを考える際には、2つのイラストを手掛かりに「かなしい」と気持ちを考えて言うことができた。
		ウ	「ニャーニャー」という鳴き声の台詞を、「ニャーニャー、ニャーニャー」と自分なりに表現を変えて言う姿が見られた。
	今後に向けて 自分なりに考えて表現する力を伸ばしたい。次回の劇にいかしていく。		
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の発表をするにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。	ア	2人で小道具を運ぶ役割を理解し、友達と一緒に取り組むことができた。
		イ	小道具を運ぶ際には自分が最初に持ち、友達の名前を呼んで「こっちだよ」と伝えながら運んでいた。
ウ		友達に声をかけながら、進んで取り組むことができた。	

	(生活科 小学部 2 段階)	今後に向けて 友達と協力して役割を果たす場面を設定する。
c	①「ブレーメンの音楽隊」の劇をする中で、ブタの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。(国語科 小学部 2 段階)	ア 悲しい気持ちの場面で、鳴き声に加え表情もつけて台詞を言うことができていた。
		イ 登場する動物の台詞から気持ちを考える際には、2 つのイラストを手掛かりに、「泣いている」と言って動作をつけることができた。
		ウ 自分の出番になると駆け足で前に出て、演じることを楽しむ様子が見られた。
		今後に向けて 色々な感情や表現の仕方を知り、楽しんでほしい。
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、自分の役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	ア 自分の役割を理解し、取り組むことができた。
		イ 泥棒の書き割りをテープに合わせて「ピタ」と言って考えながら取り組むことができた。
ウ 自分の役割の場面になると駆け足で前に出て、進んで取り組む姿が見られた。		
	今後に向けて 様々な役割を設定する。	
d	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に向けて、台詞に合わせた動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)	ア 台詞のタブレット端末のキーを押して、台詞に合わせた動作をすることができた。
		イ ゾウの役の台詞の意味を理解して、自分から友達の方を向いて「いってみよう」と手を挙げる動作をすることができた。また、自分の出番の前に、友達の働きかけに対して返事をして、台詞のタブレット端末のキーを押す姿が見られた。
		ウ 発表会当日の最後の配役紹介の時に、自分から「パオーン」と鳴き声を言う姿が見られた。
		今後に向けて いろいろな表現方法を知り、自分から表現しようとする態度を育てたい。
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	ア 劇の準備や後片付けの際に、友達と一緒に小道具を運ぶ役割を理解して、取り組むことができた。
		イ 友達の様子を見て、友達の動きのペースを合わせながら運ぼうとする姿が見られた。
ウ 繰り返し取り組む中で自分の役割を覚え、自分から進んで取り組む姿が見られるようになった。		
	今後に向けて 今後も友達と協力して役割を果たす場面を設定する。	
e	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、ゾ	ア 物語の内容や台詞の意味を理解し、友達を意識して、台詞に合わせた動作をすることができていた。

	ウの役になりきり、他の役の友達に向けて、台詞に合わせた動作をすることができる。(国語科 小学部 1 段階)	イ	登場する動物の台詞から気持ちを考える際には、2 つのイラストを手掛かりに気持ちを考えてイラスト指差して伝えることができた。
		ウ	劇全体の内容を理解して、自分の台詞の際の動き以外の場面でも、最初から最後まで場面に合わせたジェスチャーをしていた。
		今後に向けて	
		劇をすることを楽しみ、周りの友達の様子に合わせて、伝える内容を変えて働きかけている姿が見られた。 自分なりに表現しようとする意欲が高いので、いろいろな表現方法を身につけ、伝え合う力を高めたい。	
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。(生活科 小学部 2 段階)	ア	2 人で小道具を運ぶ役割や運ぶタイミングを理解し、取り組むことができた。
		イ	小道具を運ぶ際には、友達の肩をたたき「一緒にしよう」と伝える姿が見られた。
		ウ	役割に対しての意欲が高く、友達を意識して一緒に取り組もうとする姿が見られた。
		今後に向けて 友達と協力して役割を果たす場面を設定する。	
f	①「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をする中で、他の役の友達の働きかけに視線を向けたり、教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることができる。(国語科 小学部 1 段階)	ア	劇の中で友達に視線を向けたり、教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることの必要性が感じづらいものであり、意味理解が難しかった。(目標設定の工夫が必要だった。)
		イ	評価することが難しかった。
		ウ	(台詞の場面ではないが)動物のお面をつけて、劇をする会場に笑顔で向かう姿が見られた。
		今後に向けて 国語科の目標設定としては課題が残るが、単元期間中に「ブレーメン」と自分からつぶやく場面が見られた。国語科の内容においても、興味・関心の幅が広がるように、これからも様々な学習を設定する。	
	②「ブレーメンの B 組音楽隊」の劇をするにあたって、分担された役割を教師と一緒に果たすことができる。(生活科 小学部 1 段階)	ア	自分の役割を理解し、最後まで取り組むことができた。
		イ	評価することが難しかった。
		ウ	会場の自分の席に進んで座る姿が見られた。
		今後に向けて 本人に合った役割を設定する。	

ア「知識・技能」 イ「思考・判断・表現」 ウ「主体的に学習に取り組む態度」

12 単元について気付き・意見・今後に向けて

○教科の目標に迫る様子以外にも、とても良い姿が見られ、この「げきをしよう」が児童の生活のテーマとなるような単元となっていたことが分かった。

- ・休み時間にも児童 a と児童 f がパペットを使ってやりとりをして遊んでいた。
 - ・児童 b が、家でねこの鳴き声の違い(嬉しい時・驚かす時)を進んで母親に見せていた。
 - ・児童 c が配役のぶたのしゃべり方で話して楽しむ様子が見られた。
 - ・児童 e が、家の人に友達の配役についても話をしていた。
- 今後もこのような単元を計画していきたい。

○児童 f の BGM ボタンを押す役割は、その音楽に楽しさや心地よさを感じ、自分から押す姿が見られるようになった。役割を果たすことができたという意味では達成できたと評価できるが、自分の役割への理解や意識を評価することは難しかった。

○この単元を通して、児童 f の集団への意識の向上もねらったが、どうだったか評価することが難しかった。

○自立活動に焦点をあてて、目標設定をした方がよかっただろうか。